放課後等デイサービス 夢門塾　自己評価表

記入日:	2023 年 1 月 20
事業所名:	夢門塾海老名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	7		2	・限られたスペースでパーテーションを活用し、環境に工夫を施している ・年齢層が高く1人辺りに必要なスペースの面積が広く必要である ・体格のある児童もいるため狭く感じる時もあるが、机、イスを端に寄せてスペースをつくっている ・現状では使用しやすい配置になり過ごしやすくなっていると思う
	②	職員の配置は適切である	5	3	1	・同性介護となるよう、シフトや支援体制を整えている ・職員が手厚く必要となる日もあり、利用者の人数に対して職員が多い時もあるが安全のために必要だと思う ・一人一人の子どもへの注意の向け方は改善すべき点があると思う ・児発管配置がない且つ配属の目途が立たないまま配属されたため、運営としては適切な環境ではない
	③	衛生面の管理が行き届いている	8		1	・嘔吐きがある利用者が複数名おり、嘔吐き後の衛生管理には課題を感じている
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定を振り返り）に、広く職員が参画している	5	4	1	・周知が必要
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	4	4	1	・評価「等」のそれ以外の活用コドモンアンケートは活用できていない
	⑥	自己評価の結果を公開している	4	2	3	
	⑦	職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	9			
適切な支援の提供	⑧	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	6	2	1	・児発管不在の為個別支援計画書が立てられないことに加え、アセスメントが適切に行われた形跡が見当たらない。自分を含め職員間でこの事業所ではどのようにアセスメントを進めていけばいいかが分からない。
	⑨	活動の計画をチームで行っている	7	1	1	
	⑩	活動の計画が固定化しないよう工夫している	7	1	1	様々なプログラムを取り入れ、ステップアップにできる内容としている
	⑪	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	6	3		・全体に周知が必要、特に長期休み時 ・教室で用意した学習プリントを課題としているが、支援計画や本児の課題に繋がっていない印象を感じる
	⑫	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	9			
	⑬	支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			・昼礼時に共有をしている
	⑭	日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	3		・周知して全体で統一していくのに改善が必要
	⑮	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6	2	1	
	⑯	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	4		

関係機関、保護者様との連携	⑰	学校との情報共有（年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行えている	3	2	4	学校との情報共有は保護者を通じて行うことが多い。下校時刻が違うこともあり適切とは言えない。前日などに変更があると直接連絡をいただける学校もある
	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	1	3	5	・現在児発管不在のためどの程度情報共有が出来ているのか認識できていない ・就学前の利用場所と連絡を取り対象児童について話をしている場面を見たことがない
	⑲	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	1	4	4	・現在児発管不在のためどの程度情報共有が出来ているのか認識できていない ・卒業後の利用場所と連絡を取り、対象児童について話をしている場面を見たことがない
	⑳	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	3	・現在児発管不在のためどの程度情報共有が出来ているのか認識できていない
	㉑	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	5	4		
保護者様への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	4	4	1	
	㉓	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	7	1		
	㉔	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	1	3	5	・コロナで不安もあり行えていない。計画はある為今後行っていく
	㉕	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		
	㉖	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	9			
	㉗	個人情報保護に十分注意している	7	1	1	写真の撮り方、載せ方のマニュアルが必要
	㉘	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		
	㉙	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	1	2	6	
非常時などの対応	㉚	緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	6	3		簡素化、マニュアル
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	9			
	㉜	虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			
	㉝	いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	7	1	1	
	㉞	保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	6	2	1	・薬を服用するときは保護者からの連絡があった場合。緊急を要する場合も 使用する対象利用者が理解そておるため近くで見守るのみである
	㉟	ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	6	3		・共有、改善を行えていない

保護者様評価、自己評価についてまとめ

児発管不在による個別支援計画書の未作成や、支援の方向性を教室全体で把握が足りていない意見もあり早急に配置が必要である。また、前任の管理者の退職により教室が不安定な状態での運営が1年近く続き、人員が頻繁に変わっていくことに対する影響も保護者の不安感も意見から出ているため、関係性の再構築や教室運営のリスタートが必要である。保護者評価、自己評価をもとに教室運営の方針を職員全体で整えて安定した運営を目指していきたい。